

地域再生計画

『高野山麓フルーツの里再生計画』

事後評価

(地域再生基盤強化交付金(道整備交付金))

平成29年6月

和歌山県、橋本市、かつらぎ町、九度山町

地域再生計画（道整備交付金）事後評価調査

都道府県名	和歌山県	事業実施主体	和歌山県、橋本市、 かつらぎ町、九度山町	地域再生計画名	高野山麓フルーツの里再生計画
計画期間	平成23年度～平成27年度				

①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価	
	指標1	指標2	基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績				
①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	指標1	フルーツとの交流人口増（観光農園等への観光客数増）	140,173人	H22	—	—	—	145,145人	H28	585,128人	◎	広域農道とそれに通じる町道整備、道の駅や大型農産物直売所の開設などの効果により、目標値を大幅に上回った。
	指標2	農業経営を通常の生産出荷から「収穫体験型」「オーナー型」へ転換（紀の川南岸の観光農園等の箇所数）	30箇所	H22	—	—	—	46箇所	H28	46箇所	○	本地域へのアクセスが改善されたことでマイカーで観光農園を訪れる人が増えており、観光農園・直売所等の箇所数は増加し目標値を達成した。
②地域再生計画に記載した 数値目標以外の波及効果の 実現状況	指標1	年間観光客数	216万人	H22	—	H25	192万人	—	H28	421万人	◎	本計画の関係市町を訪れた観光客数は平成25年までやや減少傾向であったが、道整備と観光施策の相乗効果により平成26年以降は年々増加しており、平成28年には421万人となっている。
	指標2	柿の出荷量	2.7万t	H23	—	H25	2.9万t	—	H27	3.1万t	○	本計画の関係市町における柿の年間出荷量は、気象等による変動はあるものの約3万トンで維持されている。
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
			計画	中間年度 (H25)	最終実績							
特別措置を適用して行 う事業	町道整備事業（整備延長）		0.648km	0.557km	0.648km	かつらぎ町道見好中央6号線が整備され、地域の道路ネットワークが構築され観光客の増加に繋がっている。また、鍋谷峠道路（府県間トンネル）・父鬼バイパスが平成29年4月1日に開通し、今後さらに県外からの観光客増加が見込まれる。九度山町道78号線については、施設間調整を利用した結果、整備完了年度を1年短縮して事業完了した。広域農道から地域への道路が拡幅整備されたことにより、地域住民の通行の安全性の確保、農作業の効率化が図られた。また、観光客等の車両が進入できるようになり簡易直売所が開設されたことにより、今後都市部住民との交流につながって行くと考えている。						
	広域農道整備事業（整備延長）		6.977km	1.289km	3.306km	高野山開創1200年記念大会に合わせ、起点（橋本市）から国道370号線（九度山町）までの区間が平成27年4月に開通し、京奈和自動車道から国道371号、広域農道、国道370号を経由した新たな高野山への道路ネットワークが構築され、観光客の増加に繋がっている。また、かつらぎ町見井～平沼田までの区間も平成26年9月に開通し、農作業の効率化や地域住民の利便性向上に貢献している。未完成区間3.671kmについては、次期地域再生計画において引き続き事業実施していく。						
その他の事業	観光イベント等		農道周辺農地を利用した体験農園や、収穫祭、農道を利用したマラソン大会等を実施。			体験農園「ごんぼ遊び塾」（橋本市）、「果夢果夢バザール観光バス桃狩り」（かつらぎ町）、大収穫祭（九度山町）、広域農道をコースに活用した「世界遺産マラソン」（九度山町）などを開催し、観光客の増加、観光農園・農産物直売所への来客数増加に貢献している。						
	真田祭		九度山町は戦国武将真田昌幸・幸村父子が隠れ住んだ里であり、毎年5月に「真田まつり」を開催する。			「紀州九度山真田まつり」は恒例行事になっており、県内外からの多数の観光客が訪れる。特に平成28年は、NHK大河ドラマ「真田丸」で注目を浴び、例年の倍以上である約5万人が5月7日・8日の2日間に九度山町を訪れ、都市と農村との交流に貢献している。						
	京奈和自動車道へのアクセス整備・府県間道路整備		京奈和自動車道へのアクセス道の整備や、大阪府と和歌山県を繋ぐ道路の整備により、都市との交流を図る。			京奈和自動車道の紀北かつらぎICから国道24号へのアクセス道路である「町道 大谷連絡線」や、大阪府と和歌山県と繋ぐ府県間道路「国道371号橋本バイパス」が開通し、都市からのアクセス向上が図られており、観光客の増加に結び付くことが期待される。						
計画外で独自に実施した事業												
④評価方法	和歌山県、橋本市、かつらぎ町、九度山町が調査を行い、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。											
⑤事後評価の公表方法	和歌山県道路建設課のホームページに掲載。											
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した町道整備と広域農道整備を一体的に実施し、広域農道では高野山開創1200年記念大会に合わせ、起点（橋本市）から国道370号線（九度山町）までの区間（L=4.86km）が平成27年4月に開通し、京奈和自動車道から国道371号、広域農道、国道370号を経由した新たな高野山への道路ネットワークが構築され、都市からの観光客の流入・通過による交流・活性化が図られている。また、広域農道の沿線に新たな農産物直売所が開設されるなど、計画区域での農業振興や観光・交流人口の増などの効果が発現されている。											
⑦今後の方針等	本地域再生計画においては、町道及び広域農道の整備が進み、フルーツの産地での観光・交流人口の増加等も含め目標が達成がされた。次期地域再生計画においても、さらなる交流人口の増を図るために、広域農道を早期に全線開通させるとともに、県道や道の駅間とのアクセス道路となる町道整備（拡幅等）を行い、丘陵部の樹園地と観光農園、農産物直売所、道の駅、歴史遺産等をネットワーク化する道路網の整備を実施する必要があると考えている。一方、フルーツと歴史を核としてさらなる観光・交流人口の増を図るために、観光イベントの開催、観光情報発信の強化等、ソフト対策も一層強化していきたいと考えている。											

道整備交付金による施設整備箇所

